

豊岡市における幼児教育・保育及び放課後児童のあり方について 豊岡市子ども・子育て会議からの答申【概要版】

◆はじめに

【計画策定の背景（豊岡市を取り巻く状況）】

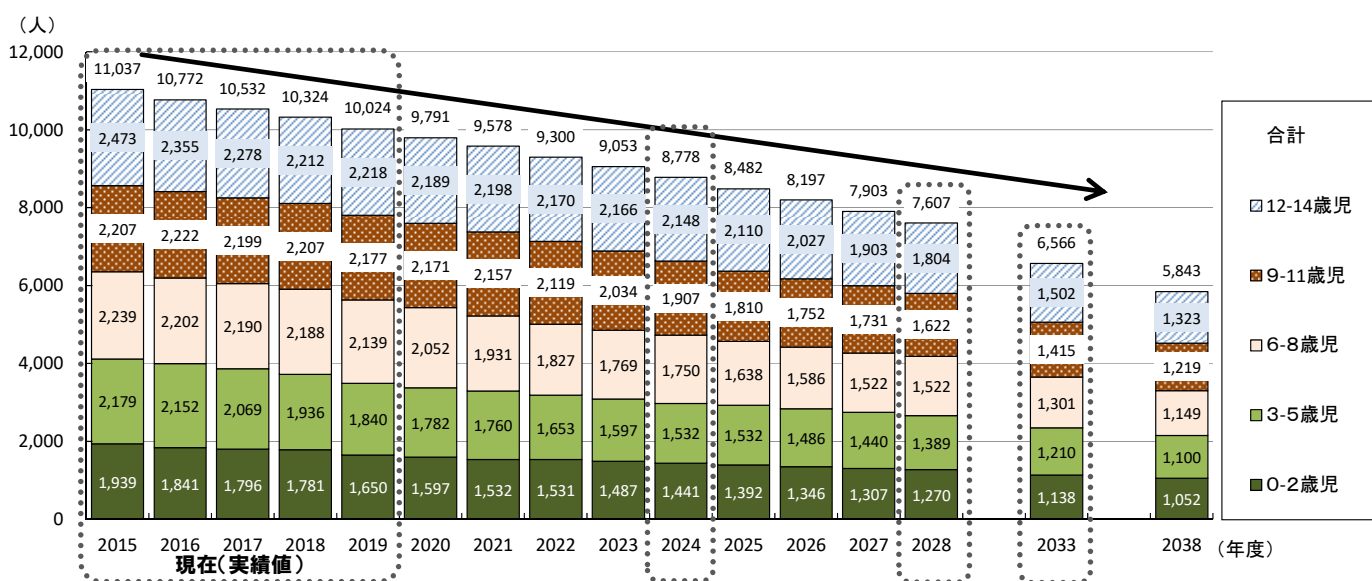
- 急激な少子化、女性の就業率の上昇などによる保育ニーズの急増、幼児教育・保育の無償化など幼児教育・保育及び放課後児童を取り巻く環境が大きく変化している。
- 他方、今後も急激な少子化が進む見込みであり、一定数の園児集団が確保できないことによる幼児教育・保育の質の低下が懸念される。
- 園児数のさらなる減少により、園の運営は著しく非効率なものとなる。
具体的には、①確保が困難な保育人材の非効率な配置、②今後、大規模改修等の必要な園が増加する中で、利用率の低い施設の非効率な維持 等が切実な課題として顕在化する。
- 園児数の急激な減少は、私立園にとっても経営基盤を大きく損なうこととなる。

これらを総合的に解決するため、施設の再編を含めた計画を策定することとしました。

計画策定に当たり、子どもの保護者、子ども・子育て支援に関する事業の従事者、学識経験者で構成された「豊岡市子ども・子育て会議」に、これからの幼児教育・保育及び放課後児童のあり方について諮問を行い、2019年9月13日に答申をいただきました。

◆豊岡市の状況と今後

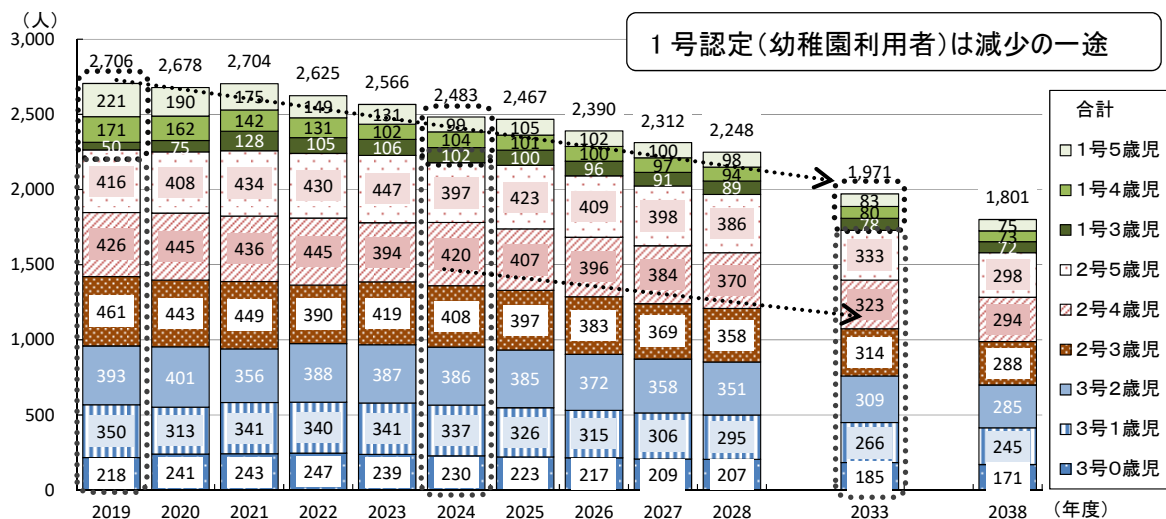
■0～14歳児人口の推計値（各年度4月1日時点）



●人口推計・ニーズ量推計の方法について

- ・2015年度～2019年度の住民基本台帳人口に基づき、コーホート変化率法により推計。
- ・就学前施設等の利用ニーズ量の推計については、近年の利用率の動向や、保護者の就労状況の推移、幼児教育・保育の無償化の影響等を考慮して、年齢・学年別の将来の利用率を設定し、推計人口を乗じて算出。

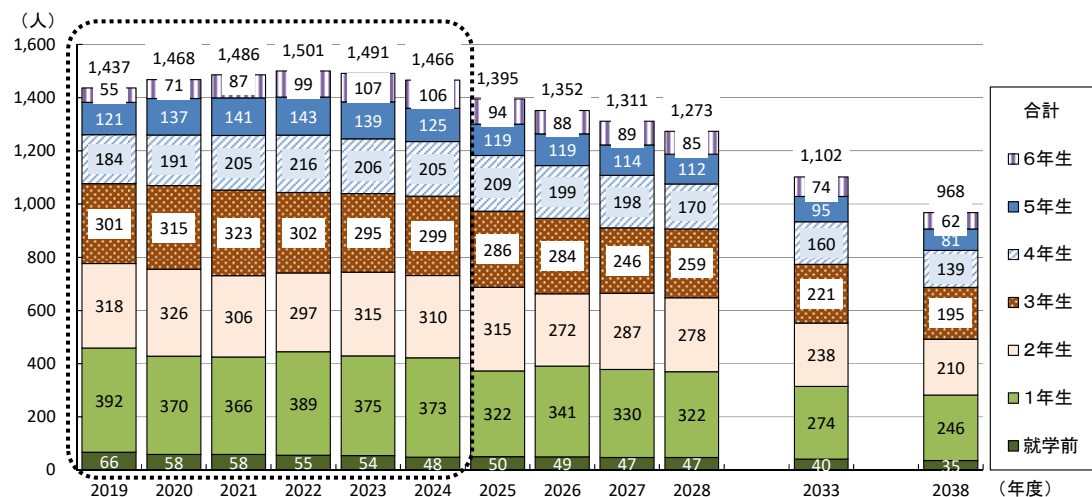
■就学前施設利用者数の推計（各年度3月1日時点）



- ・子ども数の減少に反して、保育ニーズは増加するため、しばらくは利用者数は増加・横ばいを続ける。特に0～2歳児の利用者数は2024年度ごろまで高い値で推移する見込み。
- ・2025年度以降は、子ども数の減少により、就学前施設の利用者数は全体的に減少の見込み。

※1号認定：いわゆる幼稚園 ※2・3号認定：いわゆる保育所

■放課後児童クラブの利用者数の推計（各年度5月1日時点）



- ・放課後児童クラブも保育ニーズの増加と同様に、2022年度ごろまで利用者数が増加。
- ・その後は徐々に減少に転じる見込み。

◆人口推計・ニーズ量推計からみた将来の見通し

- ・0～5歳児の人口は、2019年度を100とした場合、2028年度は76、2038年度は62となる見込み。
- ・2・3号ニーズ量：2019年度 2,264人（0～5歳児の65%） ⇒ 2024年度 2,178人（〃73%）
- ・1号ニーズ量：2019年度 442人（3～5歳児の24%） ⇒ 2024年度 305人（〃20%）
- ・現状の施設の状況等が変わらない場合、2028年度ごろにおいても0～2歳児を中心に待機児童が発生していることが見込まれる。
- ・放課後児童クラブについては、2024年度ごろまでは1,400人を超える利用者数で推移し、その後は次第に減少していくことが見込まれる。

◆計画策定までの手順

- ・市民懇談会をはじめ、関係法人等との協議を行うとともに、市の財政状況等を鑑みながら計画案を作成。
- ・計画案作成後、パブリックコメント等を通じて市民の意見をうかがい、2020年3月をめどに計画を策定する予定。

◆目指すべき基本方針

1. 幼児教育・保育のあり方

【将来像】

豊岡市に暮らす子どもの誰もが、保護者の就労状況や家庭の環境にかかわらず、安心して過ごせる日中活動の場が確保され、同年代の子どもたちとの関わりの中で、共に遊び、育ち合い、学び合うことのできる環境が整備される。

【基本方向】

- 適正な規模の子ども集団（4・5歳児1クラス15～30人）が確保できる環境を整備する。
- 保護者の就労の有無にかかわらず、幼児教育・保育の機会を保障することを目指す。
- 市内のいずれの就学前施設においても、子どもの育ちを同じように保障する体制を整備する。

【基本方向を実現するための方策】

- ・幼稚園の再編・統合と認定こども園化
（あわせて1号認定3歳児の受入れ、園区の撤廃、通園のあり方の検討 等）
- ・園児数の少ない就学前施設の再編・統合
- ・公立園の休級・休園基準の設定 【基準：4・5歳児の下限 6人程度】
- ・保育士等の確保対策

【これからの幼児教育・保育の充実に向けた取組】

- ・教育・保育のスタンダード・カリキュラムの周知と実践の深化
- ・就学前施設と小学校の連携・交流の推進
- ・就学前施設の公開保育や園庭開放などによる在宅児支援

【当面の対応策】

- ・小規模保育事業等による0～2歳児の受入れ枠の拡充
- ・認定こども園における1号認定3歳児の受入れ枠の拡充
- ・待機児童対策に向けた幼稚園利用の促進
- ・保育士等の緊急確保対策

2. 放課後児童の育成のあり方

【将来像】

保護者が就労している子どもの放課後の安全・安心な居場所として、また、異年齢の子ども集団が相互に関わり合いながら、活動できる場所として整備される。

【基本方向】

- 放課後児童の居場所を確保するとともに、異年齢集団の体験・交流の場として充実させる。
- 専門性の高い人材の確保を進めるとともに、小学校・地域との連携を進める。

【基本方向を実現するための方策】

- ・小学校・地域と連携した放課後児童クラブの活動の充実
- ・小学校施設の活用の促進、再編後の旧幼稚園舎を活用した放課後児童クラブの専用施設の確保
- ・就学前施設再編後において、放課後児童クラブでの幼稚園児の受入れの取りやめ
- ・放課後児童クラブの安全確保や活動の充実に向けた人材の確保

◆再編案の検討条件と再編図

- 各地域や各小学校における子ども数見込みの推移、通園距離も考慮して再編案を検討
- 「園区を撤廃し、いずれの園にも通園可」を基本方向とするものの、小学校就学前に当たり、4・5歳児のグループ化も考慮（緩やかな通園区域の設定）
- 就学前施設再編後の旧幼稚園舎等を放課後児童クラブの専用施設として活用

■就学前施設の再編案

小学校区	再編前	再編後	備考
豊岡	めぐみ幼稚園	このとり認定こども園	・ひかり幼稚園を建替し、認定こども園化。施設規模は、市全体のバランスを考慮して検討が必要。 ・めぐみ、田鶴野幼稚園は廃園し、放課後児童クラブで活用。 ・現状のおもしろたのしみえこども園の施設のまゝ、田鶴野幼稚園園区の4・5歳児の優先入園を考慮。
	ひかり幼稚園		
	豊陵保育園		
田鶴野	田鶴野幼稚園		
三江	おもしろたのしみえこども園	おもしろたのしみえこども園	
八条	八条認定こども園	八条認定こども園	・3歳児保育室増築等。
五荘	五荘奈佐幼稚園	小規模園 カハーストリート スマイリーハウス スプリングハウス	・五荘奈佐幼稚園を改修し、認定こども園化。 ・五荘放課後児童クラブの場所の検討が必要。
奈佐	チャイルドハウス保育園		
	テラスハウス保育園		
	西保育園		
新田	新田幼稚園	このとり認定こども園	・3つの幼稚園を統合して認定こども園化。施設の設置場所や規模は、全体のバランスを考慮して検討が必要。 ・廃園となる幼稚園（中筋除く）は放課後児童クラブで活用。
中筋	中筋幼稚園		
神美	神美幼稚園		
	ACC このとり保育園		
港西	港認定こども園	港認定こども園	・現状維持。
港東	城崎こども園	城崎こども園	・将来的に保育ニーズが減少すれば統合を検討。
竹野南	森本へき地保育園	竹野認定こども園	・森本へき地保育園は廃園。
中竹野	竹野認定こども園		
竹野			
府中	こくふこども園	新規私立認定こども園	・集団規模を確保するために統合。
八代	八代保育園		
日高	日高幼稚園	このとり認定こども園	・夢川保育園を改修し、認定こども園化。 ・日高幼稚園は廃園し、放課後児童クラブで活用。 ・0～2歳のニーズが落ち着く将来には更なる統合を検討。
静修	夢川保育園		
	夢川第二保育園		
	静修保育園		
三方	みかたの森こども園	みかたの森こども園 きよたき認定こども園	・現状維持。 ・0～2歳のニーズが落ち着く将来には更なる統合を検討。
清滝	きよたき認定こども園		
弘道	出石幼稚園	このとり認定こども園	・出石愛育園を増改築し、認定こども園化。 ・3つの幼稚園は廃園し、放課後児童クラブで活用。
福住	福住幼稚園		
寺坂	寺坂幼稚園		
	出石愛育園		
小坂	おさかおのこども園	おさかおのこども園	・現状維持。
小野			
資母	資母認定こども園	合橋認定こども園	・合橋認定こども園を改修し、統合。 ・資母、高橋認定こども園は廃園。
合橋	合橋認定こども園		
高橋	高橋認定こども園		

35 園⇒23 園（小規模保育所を除く）